



これから到来するとされる Society5.0 時代を見据えつつ、子ども一人ひとりが自立し、多様な価値観をもつ人々と協働しながら、主体的に物事を判断できる力を身に付け、新たな価値を創造していくことのできる人づくりを目指します。学校・地域の実情や児童生徒の実態に応じて重点化を図ったり、強調期を設けたりするなど、各校で創意工夫しながら実践してください。

人生や社会に生きる確かな学び

現行学習指導要領は、教師が「身に付けさせたい力（資質・能力）」を明確にし、「主体的・対話的で深い学び」を実践することで、「生きる力」の育成を目指しています。また、これから到来する Society5.0 で実現する超スマート社会は、今までにない新たな価値を生み出していく社会であり、そのために ICT は必要不可欠です。1人1台端末を教室で日常的に活用できる学習環境が整備され、ツールの一つとして**個別最適な学び、協働的な学び**を具現することができます。**子どもが学びの主体となり、様々な人と協働し、新たな価値の創造に挑んでいく多様な学びの実現**を目指してください。また、全国学力・学習状況調査の結果分析から、自分の考えをまとめる、問題解決の方法や手順を説明するなど、記述式の問題では全国平均を上回る傾向にあるものの正答率は低く、読解力や思考力、判断力、表現力等の育成を目指す授業改善が重要です。**言語活動等の学習活動の質を高めて、学習基盤となる資質・能力（言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等）や確かな学力の育成**に取り組んでください。

長岡への愛着と誇りを育む学習

長岡市では、ふるさとへの愛着と誇りをもち、ふるさとの素晴らしさを理解して語ることでできる柔軟でたくましい人材の育成を目指しています。そのためには、郷土の歴史や自然、文化等を学び、その素晴らしさに触れることを通して、子どもたちに**ふるさと長岡への愛着と誇りを育む**ことが大切です。地域の人材、施設等を積極的に活用したふるさと学習の取組を推進してください。

「ながおか学」は、支所地域の内容を充実するなど、長岡市全体について興味を持って調べるきっかけとなるように、平成29年度に大幅に改訂しました。児童生徒が学校や家庭での調べ学習に活用するだけでなく、職員研修にも活用するなどして**ふるさと学習の工夫・充実**に努めてください。

また、県内で唯一大規模空襲を受けた都市として、平和教育を推進しています。夏季休業前に長岡空襲について学ぶ機会を設けたり、戦災資料館の見学や学んだことを発信したりするなどの活動を取り入れながら、**各学年の発達段階に応じた平和教育**を実施してください。

夢・志・自信を育む教育活動

長岡市では、豊かな体験と確かな学びでやる気や意欲を高め、自ら成長する子どもを育てることを目指しています。幼少期や少年期の熱中・感動体験は、豊かな人生の基盤となるとともに、やる気や意欲の向上につながります。**心に響く豊かな体験の場を教育課程に位置付けて**ください。そのためには、中学校区で目指す子どもの姿に照らし合わせ、本物に触れ感動を味わう体験、集団や互いのよさを感じる体験、挑戦し自分の可能性に気付く体験、勤労生産・奉仕に係る体験など、発達段階を考慮して計画することが大切です。

併せて、自ら社会参画し、自立して生きていく子どもを育てることを目指しています。子どもたちのより豊かなキャリア形成のために、特別活動を中核に、総合的な学習の時間、道徳科の取組を柱とし、全教育活動で子どもが資質・能力を発揮することが大切です。学習指導要領の趣旨に沿って見直し・改善・充実を図り、**各取組を学校全体で共有し、全校で取り組む体制を構築**して推進してください。

一人ひとりを大切にした支援

長岡市における特別な支援を必要とする子どもは増加傾向にあり、**個々の教育的ニーズも多様化**しています。また、社会や経済の変化に伴い、子どもや家庭、地域社会の状況も変容し、子どもが抱えている課題が複雑化・多様化している現状にあります。

どの子にも考えをもって行動したり役割を果たしたりする場を工夫して設定することは、一人ひとりの自己肯定感や自己有用感を高め、達成感を味わわせることにつながります。特別な支援を必要とする子どもへは、**全教職員の理解の下、校内支援体制を機能**させ、本人・保護者に寄り添ったインクルーシブ教育システム（基礎的環境整備・合理的配慮・学びの場の連続性）の構築が重要です。また、必要に応じて**各専門機関（医療、市教委、子ども・教育センター等）と連携**を図ることも大切です。

そのためにも、「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」や「すこやかファイル」を適切に作成・活用して情報共有を図り、**切れ目のない一貫した支援を継続的**に行ってください。

互いに認め合う温かな人間関係づくり

「特別の教科 道徳」が小・中学校で実施され、「考える道徳」「議論する道徳」への質的転換が求められています。いじめ問題への対応の充実や発達段階に応じたより体系的な内容となるよう子どもの道徳性を育む指導方法の改善に引き続き努めるとともに、**自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、自己の生き方について考えを深める授業づくり**を進めてください。

また、様々な人と交流する体験的な学習を取り入れることで、子どもは道徳的価値について単に「知識」としてではなく、「実感」として考えを深めていくことができ、互いを認め合い、温かな人間関係を築く力につながります。コロナ禍での教育活動の見直し・改善が検討されている中ですが、**道徳教育・人権教育における体験的な学習の場としての行事、校外学習等の教育的ねらいを明確にし、子どもにとって価値ある体験の実施**につながるよう工夫してください。さらに、地域素材を取り入れながら、子どもの豊かなキャリア形成に向けた特別活動の実践や総合的な学習の時間を関連付けた教科横断的な視点から教育活動の改善・充実を図ってください。

安心・安全で心やすらぐ学校づくり

学校は、子ども一人ひとりが、**互いを尊重しながら、適切に、豊かにかかわり合う場**でなければなりません。子ども同士の、また子どもと教師の心の通った人間関係が、いじめや不登校などの生徒指導上の課題解決の基盤になり、安心して過ごせる学校の実現につながります。子どもの心に寄り添った対話や相談の積み重ね、定期的なアンケート等により、子どもの思いを受け止め、豊かな人間関係づくりに取り組んでください。そのために、**組織的な情報共有と行動連携、「子どもふれあいサポート事業」を活用した関係機関との連携**により、特にいじめの初期対応、不登校の段階に応じた対応に全力を注いでください。

SNSやオンラインゲームでの問題行動も増加しています。「**長岡市SNSセーフティプログラム**」を活用し、適切な使い方等の啓発に努めてください。

また、中越大震災や新潟・福島豪雨の被災地として、災害に関する正しい知識と行動力を身に付けるため、地域と連携した防災訓練を実施するなど、**防災教育の充実**に引き続き努めてください。

保幼小中及び地域・家庭との連携・協働

長岡市では、子どもたちが健やかに育ち、親と子が一緒に成長していけるような教育環境づくりを進めるため、生まれてから切れ目のない支援の充実を努めています。

また、現行学習指導要領では「社会に開かれた教育課程」の実現が求められており、目指す子どもの姿や子どもたちに身に付けさせたい資質・能力等を学校・園及び地域・家庭と共有し、**相互理解を図りながら行動連携・協働による取組を充実**させていくことが求められています。

そのためには、目指す子どもの姿に向けて**連携・協働することの目的を明確にし、学校・園・家庭・地域が、それぞれの役割を踏まえ、その役割に応じた具体的な取組を着実に実践**することが重要です。**学校・家庭・地域で協議の場を設けたり、地域の課題や実状に即した教育活動に地域の人と協働で取り組んだり**するなど、子どもたちや家庭も、地域も、Win-Winの関係となる互いに元気で活気あふれるコミュニティの構築に努めてください。